



橋戸

令和7年9月1日
学校だより 第5号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊一

笑顔で乗り切る

校長 青木 俊一

新学期が始まりました。子供たちの明るい笑顔と挨拶の声が学校に戻ってきました。

今年も猛暑続きで、全国各地で最高気温の記録更新のニュースが聞かれ、東京都心でも10日連続の猛暑日となり、こちらについても記録を更新しました。また、この夏は戦後80年という節目の年であり、戦争を体験された方々の高齢化も進んでいることから、いかにして多くの命を奪った戦争の悲惨さを後世に伝承していけばよいか。戦後つまり日本の平和を維持し続けることの大切さを改めて考えさせられる夏になりました。

さて、夏の風物詩といえば、高校野球です。多くの報道で取り上げられましたが、今年の話はベスト4に残った唯一の公立校である県立岐阜商業高校です。左手にハンディを抱える横山選手の活躍はもちろん、「底抜けに明るいチーム力」が話題となりました。

「明るくないと楽しくないし、楽しくないとうまにならない。常に明るく、前向きに夏のとっぺんを取りに行こう」

春の岐阜大会準々決勝敗退後に、生徒自ら立てた目標です。今大会対戦した準々決勝の横浜高校、準決勝の日大三高との試合はタイブレークまでもつれ込みました。エラーが絡んだ失点によって追いつかれても、逆転されてもチーム誰一人暗くならず明るさを貫きました。ピンチを迎えタイムアウトでマウンドに集まり伝令の声に耳を傾けるナイン、そして2年生エースの柴田選手の顔は常に笑顔でした。「すべて想定内」「いいゲームだよ」と声を掛け合う選手たちに、指導者である藤井監督は何度も立ち直らせてもらい、感動をもらったそうです。これまでの「スポーツ根性論(スポ根)」の認識が覆りました。

ゲーム後のクールダウンのキャッチボールでは、柴田選手の目にも涙がありましたが、帽子のつばの裏にはゲーム中貫き通した「笑顔」と書かれていました。

本校の目指す学校の姿は、自主・協働・主体性「学校は楽しいところ」です。子供たちの笑顔のため、楽しみながら学ぶ姿の大切さを再確認いたしました。

9月に入りましたが、まだまだ暑さ対策には予断が許されません。本校の教育活動においてもWBGT(熱中症指数)計測を用いた状況把握による対応、こまめな水分補給の声掛けを続け、熱中症防止に努めてまいります。